平和について

古堅小学校　五年二組　瑞慶山愛

戦場の病院へ行って働きなさいという命令。女生徒も戦場に行って軍に協力する。その時はあたり前だと思っていた。

元ひめゆり学徒の上原当美子さんは、言います。ひめゆり学徒隊とは、南風原の陸軍病院に動員された沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校で学んでいた女子学生です。

暗い壕で、負傷した兵士の治療を手伝い、銃砲弾が飛び交う中、水くみに走りました。その後、米軍が迫ってきたため、本島南部に撤退し、学徒隊は解散したけど、戦場に放り出された女学生の多くが命を落としました。

このように、赤ちゃん、子ども、大人、お じいちゃん、おばあちゃんなど年や性別関係なく、人の命を戦争がうばいました。

私がもし国で一番えらい人になったとします。色々な国がけんかになって、自分たちの国の日本もまきこまれたとします。それでも

私は絶対に反対します。もし、日本の全員がさんせいといったとしても、私は一人だけでも反対します。なぜなら、取り返せないたった一つの命がうばわれてしまうからです。

戦争がおきたら、みんなのおじいちゃん、おばあちゃん、みんなのお父さん、お母さん、みんなのお兄ちゃん、お姉ちゃん、弟、妹、そして自分、いなくなります。もし生きていたら、何十年も生きていけます。

戦争があって、勝敗が決まるのだけはいいと思います。ただし、そのために犠牲者が出るのは、どうでしょうか。自分が生きのびたいだけに泣いている赤ちゃんを犠牲にしたのは、良かったのでしょうか。

しかし、この戦争で生きのびた人たちのおかげで、今の私がいます。赤ちゃんを犠牲にして良かったのかは、判断できません。しかし、生きのびた人たちに感謝し、そして、今の私たちを大事にしていくのが大切なのかもしれません。

未来の私たちには、何が出来るでしょうか。

一つ目は、戦争体験者から聞いた話を聞かせていくことだと思います。未来の沖縄に戦争がおきてほしくないからです。

二つ目は、私たちが平和な世界をつくっていくことだと思います。けんかしたりするよりは、平和でみんな仲良くなったほうが、楽しいし、うれしいからです。

なによりも大切なのは、一人一人が、平和がいいと願う心だと思います。なぜなら、良い心でいれば、悪いことはしないからです。

これからも、平和が続けばいいです。